

私のプロフィール		
氏 名	廣井 弘敏	
勤務先	上越市立東本町小学校	
○ 実践教科 算 数		

★取組の方向

私の教育理念	算数は「正解がはっきりしている教科」と言われることがある。そのために、正解に至らないケースである時間切れ、計算ミス、思い違いは誤答であり、価値がないと捉えてしまう子どもが多い。そして、答えが求められないことによる恥ずかしさから、発言への意欲が高まらず、答えを求めることができた子どもが中心に授業が進むことになっていく。しかし、よくよくノートを見てみると、誤答の中にすばらしいアイディアが隠されていることが多い。 算数で育てる「考える力」の向上には、自分がどのようなアイディアで問題解決を進めたのか、どこまで問題を理解したのかという部分に光を当てていく必要があると考える。そうした授業は、AさんのアイディアをBさんが具体化し、さらにCさんが答えの妥当性を検討する、というスタイルで実践可能となる。また、考え方を重視するのであれば、答えが求められた後にDさんのアイディアを用いて問題を別な角度から解いていくこともできる。このような意見交換の進められる授業が、「考える力」を育てる一つのスタイルになるのではないだろうか。そういう授業作りを目指していきたい。
学級の実態	日頃から様々な計算練習をしているため、計算力に自信をもっている子どもが多い。また、問題を様々な角度から追求し、発表しようとする子どももいる。しかし、問題解決で意味を深く考えようとせず、とりあえず答えが求められればよい、と考えている子どももいる。答えを導き出すことができずに止まっている子どもで、自分のアイディアを発表しようとする子どもはまだ少数で、意識改革が必要と感じている。 子どもたちは、算数の問題にゲーム的な要素が加わると意欲的に学習に取り組む。当学級では、「ジャマイカ」(https://v396.securesites.net/kazuasobi/kazuasobi.html)が大好きで、競争して目標の数になる計算式を考え出そうとする姿が見られる。
今後の指導の方向	問題解決でどのようなアイディアを用いたのかが分かるようなノートへの記述の仕方を工夫させる。このやり方は、答えを導いた後の振り返りとして使えるが、それよりも、問題解決そのものに役立つ手立てとしての表現に、一層力を入れて取り組んでいきたい。具体的には、試行し検討する、絵や図をかく、パターンを見つける、表をつくる、整理されたリストをつくる、簡単な場合から考える、逆向きに考えるといった問題解決のストラテジーを指す。 また、考え方を育てるための話合いを成立させるために、問題解決の過程に着目させていく。そして、授業者は子どもの発言やつぶやきから、ねらいとする学習内容への理解が深まっていくように指導、助言をしていく。